

■ 総合情報学部が産官学連携で「地域の魅力再発見と伝承」に取り組んだ作品 ■

「360° frontier」をシーグラフアジア 2015に出展!!

～ 11月3日(火)～5日(木) 神戸国際会議場・神戸国際展示場にて開催 ～

関西大学総合情報学部は、11月3日(火)から5日(木)に、神戸で開催される、アジア最新のコンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術が大集結する展示会『シーグラフアジア 2015』に、「^{フォークロア スフィア}Folklore Sphere (地域の魅力再発見と伝承)」をテーマとした作品の一つ「360° frontier」を出展します。

「360° frontier」は、総合情報学部の教員と学生、株式会社大広、高槻市との産官学連携プロジェクトから生み出された作品です。無人航空機(UAV)から撮影した全天球映像を球形の和紙スクリーンに映し出し、高槻市の景勝地や祭りの風景を小さな地球の表面上に表現します。鑑賞者が球形スクリーンの前で手を動かすと、投影された映像が連動して回転し、鑑賞者はそれぞれの視点で球面上の風景を「探索」することができます。この動作によって、高槻のまちで受け継がれてきた地域の魅力に遭遇することができる映像作品です。同作品は、アプリケーションソフト開発のトンガルマン株式会社、無人航空機(UAV)開発のブルーイノベーション株式会社、映像編集の株式会社創造の技術協力のもと制作しています。



《「360° frontier」特設WEBサイト: <http://www2.kansai-u.ac.jp/f360/>》

関西大学は、今後も行政機関ならびに企業と連携を深めながら、教育・研究の成果を社会に還元していきます。

コンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術の宝庫「シーグラフアジア 2015」

シーグラフアジアは、ハードウェア・ソフトウェアベンダー、プロダクション、アニメーション・ゲームスタジオ、そして教育・研究機関の関係者が革新的な製品やサービスを発表するビジネスの場です。年に1度開催されるこのイベントには、50を超える国と地域から7,000人以上の業界関係者が集まると見込まれています。《シーグラフアジアWEBサイト: <http://sa2015.siggraph.org/jp/>》

出展概要

会 場: 神戸国際会議場・神戸国際展示場
『シーグラフアジア 2015』内 関西大学ブース (J-05)
日 程: 11月3日(火)～5日(木)《展示会》

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当: 石田、寺崎
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel. 06-6368-1131 Fax. 06-6368-1266
www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



【参考資料】

◆産官学連携プロジェクト「360° frontier」について

「360° frontier」は、関西大学高槻キャンパスに拠点を置く総合情報学部の教員と学生が主体となり、情報技術と映像コンテンツ制作に関わる専門性を活かしながら、株式会社大広およびブルーイノベーション株式会社と連携し、高槻市の協力を得て地域の魅力発信を目指すプロジェクトです。

プロジェクトメンバーである総合情報学部の学生たちは、ブルーイノベーション株式会社の協力のもと、国内で先行して無人航空機「ドローン」の安全対策や操縦技術について学び、ワークショップ形式で実践的な知識を習得しながら実機による飛行訓練を重ねてきました。入念な準備を行った上で、4月7日に高槻市の桜の名所「摂津峡公園」、5月1日には同市内にある芥川沿いの桜堤公園上空に1,000匹の鯉が泳ぐ「こいのぼりフェスタ」の撮影を実施しました。このような映像コンテンツを、四季折々の魅力をテーマに学生が主体となって引き続き撮影・編集を行います。また、それと並行して地域のイベントや大学の催し等への参画、本プロジェクトのウェブサイトや公共施設への掲出を通して広く発信していきます。

◆主体となる総合情報学部の教員・学生

関西大学 総合情報学部 教授・堀 雅洋 〈専門領域：ユーザー中心デザイン・知識情報学〉



多種多様なインターネットコンテンツの中で、必要な情報をスムーズに得ることは容易ではありません。このような課題の解決のため、情報端末の機能だけでなく人間の情報処理特性も考慮し、様々なユーザーにとって分かりやすい情報体系（情報アーキテクチャ）デザインと、その使いやすさを評価する研究に取り組んでいます。

関西大学 総合情報学部 教授・林 武文 〈専門領域：ヒューマンインタフェース〉



視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に「1. 視覚情報処理メカニズムに関する研究」、「2. 可視化システムの研究」、「3. 文化資本コンテンツの研究」、などを行っています。

関西大学 総合情報学部 准教授・井浦 崇 〈専門領域：メディアアート〉



メディア技術と人間の感性の間にある隔たりを越えるため、映像・音響表現の双方を用いて取り組んでいるテーマが、視覚と聴覚の相互作用です。視覚・聴覚を巡る芸術・科学や文化をふまえたうえで、実験的表現を通して各感覚の枠組みを越えた表現の可能性を探り、映像や音楽の表現領域の横断を試みています。

関西大学大学院 総合情報学研究科 博士課程前期課程 平尾 修悟 〈専攻：知識情報学専攻〉



映像・音響処理や、LeapMotion などの新しいデバイスについて学び、メディアアートにおける新たな表現手法を研究しています。

無人航空機（UAV）の操縦から映像・音響処理のプログラミングまで行い、当プロジェクトのコンテンツ制作に貢献します。

◆連携企業

株式会社 大広（企画）：<https://www.daiko.co.jp>

トンガルマン株式会社（技術協力）：<https://tongullman.co.jp/index.php>

株式会社ブルーイノベーション（無人航空機（UAV）開発協力）：<http://www.blue-i.co.jp>

株式会社 創造（撮影協力）：<http://sozo52.wix.com/sozo-tvcn>